



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



# News Letter

No.52

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2023年6月30日発行

## 【本号のトピックス】

第34回学術大会および第12回IAGG-AOR報告／支部長会報告  
歯科衛生士交流会報告／各賞受賞者紹介／専門医認定者の声／支部だより 他

## 第34回学術大会が盛会裡に終了しました！

大会長 菊谷 武  
(日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)

第34回学術大会を無事盛会のうちに終了することができました。2年前の企画時点ではコロナ禍であったために会場数を制限し、縮小した形式での開催ではありましたが、事前、当日を合わせて1,910名の参加登録をいただきました。また、学会期間中は1,728名もの多くの方々が登場されました。ご参加、ご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。

今学術大会は「生きるための、しあわせのための『くち』を守る」をテーマとして、今後日本老年歯科医学会が目指す姿、取り組むべき課題についてプログラムを組み立てました。特別講演、シンポジウム、ポスターセッションを通

じた素晴らしい講演と活発なディスカッションが交わされました。加えて、2年に一度の日本老年学会との同時開催のために他学会の講演を聴講できる貴重な機会となりました。

学会期間は梅雨の時期でありましたが、晴天にも恵まれ、横浜の美しい夜景と海を眺めながらの絶好のロケーションでの情報交換会も開催することができました。参加いただいた方々は久しぶりに親睦を深められたかと思えます。

最後に、ご後援・ご協賛団体ならびに協賛企業の皆様、学会事務局と運営事務局の皆様のご支援とご尽力に深く御礼を申し上げます。



前回大会長の小野先生と水口理事長



菊谷大会長



羽村名誉大会長



次回大会長の山崎先生



米山先生(特別講演1)



大きなパネルが来場者をお出迎え



満員の会場の様子



理事・監事・幹事の先生方



開放的な情報交換会会場

# 第12回IAGGアジア/オセアニア国際老年学会議 (IAGG-Asia Oceania Regional Congress 2023)開催報告

IAGG-AOR 2023 組織委員会  
Co-Chair 松尾浩一郎  
Finance Committee 小野高裕  
Scientific Committee 池邊一典

2023年6月12~14日に、日本老年学会が主催の第12回アジア/オセアニア国際老年学会議(The 12th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2023)が横浜で開催されました。COVID-19パンデミックが一段落したこともあり、30以上の国々から1,700名以上が参加し、1,153演題の口頭、ポスター発表や70以上のシンポジウムが開催されました。老年歯科医学関連の3シンポジウムでは、海外の演者を交えて有意義なディスカッションがなされ、夜には楽しい情報交換会も開催されました。アジア諸国の老年学にかかわる先生方との学際的交流が促進した3日間となり、他国においても老年学におけるOral healthの重要性が認識されつつあるのを実感しました。今後もますますの日本からのGerodontologyの発信が期待されます。なお、雑誌

GGI (Geriatrics & Gerontology International) では、本大会に関連したSpecial Issueが企画されています\*。本大会での発表者の論文投稿が可能ですので、発表された先生方はぜひ奮って投稿ください。最後に、今後のIAGG関連の情報です。ぜひ皆様のカレンダーに入れておいてください。

【2026年7月5~9日：IAGG World Congress,  
オランダ、アムステルダム】

【2027年6月13~15日：IAGG-AOR,  
マレーシア、クアラルンプール】

\*GGIのSpecial Issue ページ：

[https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/14470594/homepage/call\\_for\\_papers](https://onlinelibrary.wiley.com/page/journal/14470594/homepage/call_for_papers)



Symposium 1



Symposium 2



Symposium 3

## e-TRIGGER 若手の老年科医師向け教育プログラムおよび 2023 IAGG-AOR Webinarのご案内

e-TRIGGERは、IAGG(国際老年学協会)が主催する若手の老年科医師向けの教育プログラムです。プログラムの概要は、以下の日本老年医学会のリンクをご参照ください。ご興味ある先生がいらっしゃったらぜひご参加ください。  
<https://www.jpn-geriat-soc.or.jp/kensyu/etrigger2022.html>

また、2023 IAGG-AOR Webinar “Biological Science of Ageing”が8月16日に開催されます。こちらもご興味ある先生がいらっしゃったらぜひご参加ください。  
<https://www.aag.asn.au/EventDetail?EventKey=WEB230816>



## 各支部におけるセミナー実施報告と活動からみえた課題 ～2023年度支部長会～

支部運営委員会委員長 平野浩彦

今年度の支部長会は第34回学術大会最終日に対面にて開催され、3人の支部長による話題提供、その後各ブロックおよび全体で討議しました。まず角町正勝先生（長崎）から、九州ブロックにて支部セミナーを通して、在宅・施設などで歯科の診療活動がスムーズに展開できる環境づくりの重要性を共有する取り組みについて報告されました。次に小向井英記先生（奈良）は、高齢者歯科の課題として、地域包括ケアシステムへの歯科の参画、多職種連携、在宅歯科医療を担う人材の確保、認知症・オーラルフレイル・口腔機能低下症の対応が不十分であることを指摘されました。最後に玉置勝司先生（神奈川）から、歯科と栄養に関するテーマで実施した支部セミナーについて発

表がありました。また討議では、発表者への質問や支部セミナー開催の工夫などについて熱いディスカッションが行われました。



全国から各支部の先生方が集結されました

## 歯科衛生士交流会開催報告

歯科衛生士関連委員会委員 石黒幸枝・丸岡三紗

2023年6月18日（日）、歯科衛生士関連委員会主催の歯科衛生士交流会を開催しました。4年ぶりの現地開催は、50名を超える参加者となり大盛況でした。今回は地域別に8つのグループに分かれ、テーマに沿って意見交換を行いました。最後の全体発表では、今後自分がやりたいと思っていることや学会への要望など、前向きでエネルギーッシュな意見が多く聞かれました。参加者からは「さまざまな年代、環境で働く歯科衛生士同士の交流は貴重な時間となった」「同じ悩みを共有できて安心した」「久々の対面で楽しかった」などの感想が聞かれ、名残惜

しいなかでの終了となりました。今後もさまざまな形の交流会を企画する予定ですので、奮ってご参加ください。



4年ぶりの現地開催は大盛況でした

## 2023年度各賞受賞者紹介

### 【功労賞】

佐藤裕二（昭和大学名誉教授）  
米山武義（米山歯科クリニック院長）

### 【老年歯科医学賞 / 渡邊郁馬賞】

西尾健介（日大・歯・歯科補綴第I）

### 【優秀奨励論文賞（ライオンアワード）】

泉 繭依（九歯大・歯・口腔保健）  
畑中幸子（昭和大・歯・口腔機能管理）

### 【優秀課題口演賞】

中川紗百合（北大・院歯・口腔健康科学・高齢者歯科）  
岡田光純（医科歯科大・院歯・高齢者歯科）

### 【優秀ポスター賞】

末永智美（北医療大・在宅歯科診療所）  
齋藤寿章（島根県歯科医師会）  
波多野真智子（浜松市リハビリテーション病院）



## 新規 専門医認定者の声

### 伊原良明先生

(昭和大学歯科病院口腔機能リハビリテーション科)

私が、昭和大学の口腔リハビリテーション科大学院に進学した当時、日本の歯科大学で摂食嚥下障害を専門とした診療科は数えるほどしかありませんでした。しかし、高齢者人口の増加に伴い、現在摂食嚥下障害を専門とする診療科は多くの大学、病院などに存在し、大学病院では、専門性が求められる時代になっていると感じています。そのなかで、専門医試験は高齢者歯科の知識を広く問われるものであり、自分の知識不足などを再確認し、勉強し直すという良い機会となりました。今後は専門医として自己研鑽を怠ることなく精進し、微力ではありますが臨床、研究、教育に取り組んでまいりたいと思います。



### 山脇加奈子先生

(ナカムラ病院)

私は歯科口腔外科での研修後、主に認知症高齢者が入院する療養型の病院へ勤務し、11年が経ちました。一般歯科治療に加え、多職種とのミールラウンドおよび嚥下造影検査を行っています。症例報告書は、認知症やさまざまな基礎疾患をもつ患者への歯科介入例、ARONJ、習慣性顎関節脱臼、嚥下造影検査、嚥下訓練、および看取り症例など、療養型病院で経験したさまざまな症例を内容としました。筆記試験は歯科領域や嚥下に関する問題だけでなく、老化のメカニズムや加齢に伴う身体の変化など、参考書をしっかり読み、理解しておくことが大切であると感じました。今後、老年歯科専門医としてどのような社会貢献ができるのか考えたいと思います。



### 木村将典先生

(朝日大学歯学部摂食嚥下リハビリテーション学分野)

私は地域の急性期医療の中核を担う病院で、摂食嚥下リハビリテーションの分野を主に携わってきました。診療を行う際に、患者さんの全身状態を把握するのはもちろんのこと、多職種が密に連携したチーム医療の重要性を強く感じてきたため、チームで連携して診療した方を中心に症例報告を行いました。

筆記試験の問題は深い知識が必要というよりは「広く浅く、確実に」という印象で、自分の専門外の分野については自分の知識の曖昧さを痛感しましたが、自分に足りない部分を認識する良い機会となりました。

超高齢社会のなかで、高齢者の歯科治療はますます重要になると思います。今後も研鑽を積み、地域医療に貢献していきたいと思います。



### 鈴木啓之先生

(東京医科歯科大学高齢者歯科学分野)

私は、東京都健康長寿医療センターでの研修医を経て、現在まで東京医科歯科大学高齢者歯科学分野に所属しています。

これまで多くの高齢者に対する歯科診療（外来、訪問診療など）を経験させていただくなかで、歯科に関する知識のみならず、全身疾患、医療・介護制度など、高齢者を取り巻くさまざまな内容を多角的に学ぶ必要性を強く感じ、老年歯科専門医を目指しました。

筆記試験では、出題範囲の幅広さから苦労した面も多ありましたが、勉強を進めていくなかで、老年歯科学の奥深さ、面白さを再認識できました。

今後は老年歯科専門医としての自覚をもちながらさらなる研鑽を積み、高齢者の健康増進に寄与できるよう精進していきたいと考えています。



## | 支 | 部 | だ | よ | り |

北海道支部主催セミナー  
「第22回北海道口腔ケアセミナー」  
開催報告

北海道支部 山崎 裕

2023年5月13日(土)に第22回北海道口腔ケアセミナーを昨年と同様、オンラインにて開催いたしました(参加者88名)。今年度は山内智博先生(都立駒込病院・歯科口腔外科)に「コロナ禍における口腔機能管理」、末永智美先生(北海道医療大学在宅歯科診療所)に「多職種連携における高齢者の口腔健康管理」と題したご講演をいただきました。山内先生からは、コロナウイルス治療を最前線で行っている病院で、口腔機能管理をどのように実践されてこられたか、末永先生からは、多職種の方々に気づいてほしい高齢者の口腔の変化のポイントなどをそれぞれ詳しくご説明いただき、会員にとってたいへん有意義なものになりました。

講演中の山内先生(上段)  
と末永先生(下段)岐阜支部共催セミナー  
「第3回岐阜県多"食"種連携研究会」  
開催報告

岐阜支部 谷口裕重

第3回岐阜県多“食”種連携研究会を2023年5月14日(日)9:30~14:40の日程で、ハイブリッド形式(配信場所:朝日大学)にて開催しました。岐阜県の医療に関連した各職能団体(医師会、歯科医師会、歯科衛生士会他)に加えて、今年からは岐阜県からも後援を得て開催されました。

今回は「地域と繋がれ!岐阜県多“食”種連携」をテーマとして、開会挨拶の後、第1部は「医療・介護と地域を繋げるためどのような苦労があるのか」「どのような工夫をしているのか」について、医療側(訪問看護・薬局)と地域側(介護支援専門員・宅配弁当)からご講演いただきました。第2部は特別講演として、戸原 玄先生(東京医科歯科大学)に「摂食嚥下障害の評価と訓練の実際」とのタイトルでご講演いただき、「感銘を受けた」「充実した時間であった」といった声が数多く寄せられました。

今回はハイブリッド開催でもあったため、北海道から沖縄まで全国からの参加があり、参加者341名(オンライン212名、来場者92名、世話人22名、スタッフ15名)、協賛企業16社のご協力によって盛況のうちに終会となりました。県下に幅広く高度な摂食嚥下医療を普及させるために、今後も定期的に研究会、研修会を行う予定です。



会場の様子

## 今後の支部セミナーのご案内

※詳細は学会HPをご覧ください

福岡支部共催「第19回日本神経摂食嚥下・  
栄養学会学術集会 福岡大会」日時: 2023年8月26日(土)  
10:00~17:00(予定)会場: 福岡大学病院  
福大メディカルホール

主催: 日本神経摂食嚥下・栄養学会

2023年度 広島支部・広島摂食嚥下栄養研究会  
合同セミナー日時: 2023年8月31日(木) 19:00~20:30(予定)  
会場: 広島大学霞キャンパス内

「広仁会館」2階大会議室

主催: 日本老年歯科医学会広島支部、  
広島摂食嚥下栄養研究会  
(共同開催)

講師のペレ・クラベ先生

## 第35回学術大会のご案内

会 期:2024年6月28日(金)  
～30日(日)  
会 場:札幌コンベンション  
センター  
大会長:山崎 裕(北海道大学  
大学院歯学研究院口腔  
健康科学分野高齢者  
歯科学教室教授)



## 第36回学術大会のご案内

会 期:2025年6月27日(金)～29日(日)  
※第34回日本老年学会総会 併催  
会 場:幕張メッセ・東京ベイ幕張ホール  
大会長:片倉 朗(東京歯科大学千葉歯科医療センター  
センター長)



## 「う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法【普及版】」が公開されました!

4 学会合同フッ化物配合歯磨剤の応用検討委員会 遠藤真美

2023 年元旦に、日本口腔衛生学会、日本小児歯科学会、日本歯科保存学会とともに「4 学会合同 う蝕予防のためのフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法」を公開しました。その後、多くの関係者からのご意見などをふまえたうえで、多くの国民への普及に向けて4月13日に【普及版】を改めて発表しました。その内容は、4月21日に、厚生労働省医政局歯科保健課歯科口腔保健推進室から、各都道府県、保健所設置市、特別区の歯科口腔保健担当部局に向けてそれらの内容の情報提供がなされるなど、普及が推進されております。

学会のホームページにも公表しておりますので、ぜひ、ご覧になってください。



[https://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline\\_20230301.pdf?230417](https://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline_20230301.pdf?230417)

年齢	使用量 (※1)	フッ化物濃度 (※2)	使用方法
歯が生えてから2歳	米粒程度 (1～2mm 程度) 	900～1000 ppmF	・フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。 ・900～1000 ppmF の歯磨剤をごく少量使用する。歯みがきの後にアイッシュなどで歯磨剤を軽く拭き取ってもよい。 ・歯磨剤は子どもが届かない所に保管する。 ・歯みがきについて歯科医師等の指導を受ける。
3～5歳	グリーンピース程度 (5mm 程度) 	900～1000 ppmF	・フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。 ・歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。 ・子どもが歯ブラシに適切な量の歯磨剤をつけれない場合は、保護者が歯磨剤をつける。
6歳～成人 (歯磨剤を含む)	歯ブラシ全体 (1.5cm～2cm 程度) 	1400～1500 ppmF	・フッ化物配合歯磨剤を利用した歯みがきを、就寝前を含め1日2回行う。 ・歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。 ・子どもが歯ブラシに適切な量の歯磨剤をつけれない場合は、保護者が歯磨剤をつける。

## オンラインLive研修会のご案内

### 「ICT を用いた多職種連携 (1) 自治体規模における取り組み」

日 時:2023 年 9 月 8 日 (金) 19:30～20:40  
WEB 開催 (Zoom 配信)  
参加費:無料 (本会会員限定)  
※詳細は学会 HP をご覧ください。



講師 1:大分県理学療法士協会地域包括ケア推進委員長  
白杵市医師会立コスモス病院事務長  
竹村 仁 先生  
講師 2:東京都豊島区歯科医師会会長  
高田歯科医院院長  
高田 靖 先生



### 編集後記

第34回学術大会の会場で配布された大会缶バッジはいかがでしたか? 前回の新潟で好評をいただいたことから今回も配布されたもので、ぜひ皆様のご感想をお聞かせください。次回札幌での配布は未定ですが、現地参加の記念として定番になれば幸いです。

(岩佐康行)



発行人 水口俊介  
編 集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会  
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9  
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内  
E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp